

2004年12月16日

会社名 株式会社 大丸  
 コード番号 8234  
 代表者名 取締役会長 奥田 務

## 2004年11月度 大丸 連結営業報告

### 1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	11 月 度	9 ~ 11月 累 計
百貨店業	3.4	3.4
スーパーマーケット業	1.8	0.4
卸 売 業	18.1	4.2
その他事業	25.7	16.7
連結合計	0.8	0.7

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

### 2. 百貨店業 売上高概況

#### 1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	11 月 度		9 ~ 11月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	3.8	9.6	2.5	9.0
梅田店	1.6	1.3	2.9	3.4
東京店	4.7	6.2	2.2	4.0
京都店	2.1	0.6	1.9	2.3
山科店	1.5	-	2.9	-
神戸店	4.7	7.4	2.7	4.0
新長田店	5.8	-	7.0	-
須磨店	3.0	-	6.8	-
芦屋店	2.2	-	8.4	-
札幌店	2.1	0.8	4.8	0.2
直営10店舗計	3.0	4.0	2.1	3.1
博多大丸	5.0	3.9	8.8	8.8
下関大丸	6.0	7.5	8.2	7.7
高知大丸	6.0	6.7	5.5	6.9
今治大丸	0.9	8.1	4.8	9.8
百貨店業合計	3.4	-	3.4	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店舗である。

#### 2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	11 月 度	9 ~ 11月 累 計
紳士服・洋品	3.3	2.2
婦人服・洋品	5.6	4.5
子供服・洋品	11.1	9.7
その他の衣料品	7.5	6.5
衣料品計	5.4	4.3
身の回り品	3.1	1.0
家具	10.6	9.2
家電	7.7	6.4
その他の家庭用品	4.6	3.8
家庭用品計	5.5	4.6
食 料 品	0.9	0.3
食堂・喫茶	8.4	6.9
雑 貨	0.4	4.3
サ ー ビ ス	5.4	4.1
そ の 他	6.0	6.4
合 計	3.0	2.1

### 3. 概況

#### 1) 百貨店業

- ・ 11月の百貨店業の売上高は、本年は土曜日、日曜日が対前年計 2日減であったことに加え、気温が高めで主力のコートなど重衣料の動きが悪く、直営店では対前年 3.0%減、全体では同 3.4%減となった。
- ・ 直営店の店別売上高は、札幌店は対前年 2.1%増と7ヶ月連続で前年を上回ったが、その他は前年を下回った。心齋橋店はハービスエントなどが新規オープンした梅田地区に人が流れたこと、東京店は前月に実施された開店50周年記念販促の反動、神戸店は固定客向け優待販促を大幅に減少させたことなどにより、それぞれ入店客数が減少したことが響いた。
- ・ 商品別では、婦人服、紳士服ともジーンズなど好調なアイテムもあったが、気温が高めに推移したため重点商材のコートの動きが特に鈍く、衣料品全般としては不調であった。食料品はお歳暮ギフトで早期受注の優待対象顧客を拡大したことによる押上げや、京都店の改装効果持続もあって前年を上回った。
- ・ 博多大丸は同業他店やSCとの競合の影響が薄れてきたものの、対前年 5.0%減となった。下関大丸、高知大丸も競合店や高い気温の影響により衣料品を中心に不調で、それぞれ同 6.0%減となった。

#### 2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、対前年 1.8%減であった。関東地区は同 3.3%減、関西地区は競合の影響が一巡したこともあり同 0.1%の微減であったが、関西地区の既存店(3/24に閉鎖した「大阪病院売店」を除く)ベースでは前年を上回った。
- ・ 卸売業の大丸興業の売上高は、電子部品や資材、畜産品などが好調で対前年 18.1%増となった。
- ・ その他事業では、建装事業の大丸装工や人材派遣業のディンプルなどが大きく伸ばした。

お問い合わせ先	株式会社 大丸	グループ本社	広報・IR部
		TEL	06-6281-9002
		FAX	06-6245-1343